

標高

918の風

vol.4
SUWA RIKI
2014.10.1

諏訪東京理科大学



諏訪東京理科大学
学長 河村 洋

この「918の風」は、本学の最近の様子を、保護者や地域の方々、また学校法人内にもお知らせするニュースレターで、今回で第4号となります。

最近、本学のごく近くから出土した縄文時代の土偶「仮面の女神」(写真)が国宝に指定されました。いまから約4,000年前の作品と推定されています。高さは34cmもあって、この種の土偶としては大変大きく、焼成の技術も非常に高度であったことを示しています。この頃数千年に亘ってこの地域では、人と自然の調和ある社会が営まれました。地元茅野市ではこれを機会に「縄文ふるさと応援団」を立ち上げましたので、本学もこれに登録して、学生諸君や教職員がいろいろな活動に参加しています。

本学では、今年度から工学部を再編して、コンピュータ・メディア工学科を発足させました。いま、人と人の交流やものづくりにも欠かせないデジタルメディア技術について、メディアラボ等を活用しながら、その基礎と応用を学ばせます。そのほか、EV(電気自動車)ラボでは、前号(Vol.3)でもご紹介したスローライフな玉乗り型移動車の開発を、長野県の補助金も得てさらに進めています。このほか、エネルギーラボでは燃料電池などの自然エネルギーの開発、ビジネスラボでは植物工場を通しての商品開発やマーケティングに取り組んでいます。

いま、日本中にグローバル化の波が押し寄せていますが、この地域の企業も、中小規模企業を含めて、どんどん海外に進出しています。本学では、このようなグローバル化に対応出来る人材を送り出すために、地元企業のご協力を得ながら海外企業研修を開始することが出来ました。この夏には、経営情報学科が約一週間の短期研修を実施しましたが、参加した学生諸君は、大変貴重な体験をさせてもらって帰ってきました。後期には約3ヶ月の長期研修にチャレンジする学生もいますので、その成果を期待しています。



仮面の女神



コンピュータメディア工学科紹介

今年4月からシステム工学部を工学部に名称変更し、電子システム工学科と機械システム工学科を機械工学科・電気電子工学科・コンピュータメディア工学科とし、経営情報学部経営情報学科を加え、2学部4学科体制でスタートしました。

近年、私たちに身のまわりにあふれるデジタル製品、たとえば、画像・音響・通信を備えた多機能型携帯電話スマートフォン、インターネットにつながるデジタルテレビ、さらには危険を

察知して制御可能な車や電車など、これら多くのものはハードウェアをソフトウェアが動かして私たちの生活を便利な社会に日々刻々と変化させています。

この時代の流れを踏まえ、コンピュータメディア工学科は、『画像・音響・通信分野』『通信・ネットワーク分野』『計測・制御・知能分野』、それらをつなぐ『デジタルメディア創成分野』の4つの分野から構成することで、自分のアイデアをソフトウェアとハードウェアを融合した新たなカタチを実現してデジタルメディアとして発信できる人材を育てる学科として歩み始めました。

時代に左右されない基礎から応用の知識と技術を学びながら、大学と企業さらには公官が一緒になって実践的な技術や未来創造的な研究を推進力として、人と人がコンピュータでつながる未だ見ぬ新しい時代を教員と学生がともに切り拓いていきたいと思っています。

(コンピュータメディア工学科 田邊 造 准教授)



諏訪東京理科大学のシンボルタワーの標高が918m。「918の風」はそれにちなんでいます。

TOPICS

総合演習で最優秀賞

本学は理系と文系の学生と一緒に活動する「融合教育」の一環として、1年生の「フレッシュマンゼミ」、3年生の「総合演習」を実施しています。



総合演習は、各学科数人ずつで1つのチームを作り、与えられた課題に取り組む授業で、フレッシュマンゼミの発展版のようなものです。

与えられた課題は「インタラクティブプロジェクトのある豊かな学園生活のワンシーン」でした。この授業ではチームリーダーのことを社長と呼びます。僕が社長に選ばれ、実際に呼ばれると少しいい気分になります。

苦労したことは人間関係です。メンバーのほとんどが初めて会う人でした。全員が仲良くなるようにと食事に誘いました。これをきっかけに全員の距離が急激に縮まりました。すると、会話が自然と増え、授業時間外の活動も増えました。そしてメンバーという時間が楽しいと感じるようになりました。発表会では劇も行ないました。このような工夫や努力が評価されたのか、最優秀賞をいただくことができました。



12月の社会人基礎力育成グランプリ（関東地区予選大会）に出場する権利が与えられました。いい経験ができると思うので、最後までしっかりと取り組み、再びいい結果がついてくることを願っています。



総合演習発表会

（機械システム工学科3年 六川 京也）

真夏のマドンナプロジェクトに参加して



マドンナプロジェクトとは、女性が少ない理系の中で、理工学発展のためにもっと女性に理系に進んで欲しいという願いから東京理科大学が主催しているイベントです。「女性ならではの科学」を武器に活躍するため「Scienceを知る」、「Researchを体験する」、「Professionalに目覚める」をテーマとして全国から集まった女子高生にサイエンスの魅力を体験的に知ってもらいます。8月に諏訪東京理科大学を舞台とした2泊3日の催しでした。私は写真撮影の仕事で関わらせていただきました。集まった女子高生は模擬講義やフィールドワーク、理科大生との交流を通して理工系の魅力を感じたり、大学生活のイメージを膨らませたりしたようでした。女子高生たちは、初対面の人が多い中でも、気づけば数時間後には笑い合っていたりして終始明るい雰囲気でした。諏訪理科にこれほどの女子が集まることはそうあることではなく、学内に女子の元気な声が響き渡りいつもと違う雰囲気ではなにか新鮮

でした。また、運営側の東京理科大学の女子学生さんともお話できたのですが、皆さん明るくて積極性があって朗らかな気持ちになりました。

場所こそ通い慣れた大学でしたが、関係者の多くが初対面で初めは緊張していましたが、写真部員でもある私は写真を撮るのはとても楽しかったし、理科大の学生さんや高校生と少なからず交流することができ、夏休みのはじめの素敵な体験になりました。



（経営情報学科2年 樋口 舞）



学生会が私にとっての大きな目標



4月1日より「学園生活応援団」が名称を改め「学生会」としてスタートしました。私が学生会会長となったきっかけは、学生会を立ち上げた人ともいえる卒業生の井上大樹前会長からの推薦でした。大役の経験がない私は、できないと断ったら「お前なら絶対できる」と強引に背中を押されたことが私にとって大きな目標を得ることができたすべての始まりでした。

井上会長が言った「今しかできないことに挑戦して学生の特権を活かそう」という言葉を聞いて、不安だった気持ちが次第にやりたいという意欲へと変わりました。

新年度が始まって、スポーツ大会、夏山自然交流と行事を企画してきましたが、学生が参加しやすいイベントを作り上げることが、私たちに課せられた重要な課題で、学生会全員一致団結してそれを実現することが私の大きな目標です。



夏山自然交流（車山にて）

（学生会長 経営情報学科3年 山田 翔太）

新 入 生 の 声



僕の出身は茨城県稲敷市で、今は大学まで徒歩5分のアパート住まいです。もちろん初めての一人暮らし。すべてが自己責任で大変なこともあります。といっても、掃除や片づけを自分でやらなければならないという程度なのですが、大学の勉強には少々苦労していますが、病気で一度欠席しただけで毎日頑張っています。

料理は自炊しています。外食は友だち付き合以外はまったくしません。安い野菜を大量に買って1カ月分まとめて料理し、冷凍しておきます。高校時代から料理をしていたのでその経験がとても役立っています。

サークル活動は、少林寺拳法とボランティアサークルに参加しています。僕は色々な人とつながりをもっている人になりたいと思っているのですが、サークル活動では他の大学の人や地域の方々との出会いがたくさんあり、その目標に近づいている気がします。

(電気電子工学科1年 栗原 正樹)



経営情報学部ということで経営分野の講義ばかりなのかと思っていましたが、経営の専門的な講義はもちろん哲学や線形代数等をはじめとする幅広い分野の講義を受けることが可能であり、大学の授業内容の充実さや柔軟さを感じています。その他にも、JAZZ研究会に入部したことで、共通の趣味を持つ仲間が増えました。

私は実家から通っているため通学に1時間以上の時間がかかります。入学当初は大変だと感じることも多く、家に帰っても疲れて学習時間があまり取れませんでした。しかし、この通学時間を利用して授業の予習復習などを行なうようにしたことで、時間を無駄にせず有効に活用できるようになりました。

大変なことも多いけれど、これからの4年間で自分の知識をより深く充実した大学生活を送っていきたいと思います。

(経営情報学科1年 青柳 志穂里)

茅野市こども祭りに参加して

6月1日(日)茅野市こどもまつりが開催されました。諏訪東京理科大学も研究室やサークルなど6ブースが参加しました。その中から『えんぴつオルガンを作って演奏しよう』というブースを紹介します。「えんぴつオルガン」とは、えんぴつで引いた線の“電気を通す”性質を用い、音の高低を変える研究室オリジナルの電子機器です。



どうやったらえんぴつオルガンの仕組みや面白さが伝わるかなど、準備の段階で自分でも作りながら先輩に質問して当日に臨みました。私の説明が分かると子どもたちはニコニコして作業をすすめ、私の説明が悪いと『なんで?』って素直に聞いてくれるので、私も試行錯誤を繰り返しながら、一人ひとりに合った説明を工夫しながら電子工作を完成してもらいました。

説明の仕方次第で作業進行が変わることを知り、分かってもらえるコミュニケーションの大切さや面白さを学び、参加してとても良かったと思っています。

(電子システム工学科2年 桜井 優里)



研究室で設計したえんぴつオルガンは、ハンダする電子部品点数が多いため、研究室のみんなで何回も練習して当日をむかえました。電子工作をはじめるとして、さすがものづくりのまちの子どもたち!ハンダゴテやペンチさらにはニッパなど次第に上手に使い、分からないこともたくさん質問してくれて、全員が完成させました。

真剣に電子工作に取り組み、最後に電池を入れて音が鳴ったときの子どもたちの顔が笑顔に変わる瞬間が、私は今でも忘れられません。是非来年も参加したいと思います。

(電子システム工学科4年 名取 完)

新しい部長会長になりました



クラブ部長会は大学の部活・サークルの部長から構成されています。部長会は部活・大学行事に関する情報取得の場としてだけではなく、今年度は学生コミュニティ広場に設置されているインタラクティブプロジェクターで学生が自由に情報発信できるようにしました。各団体が今まで掲示物1枚で伝えきれていなかったこと、活動の場が限られてしまっていたために情報発信がしにくかったことから脱して、動く情報を学生たちに見てもらうことで各団体の活動の様子や楽しさなどが伝わりやすくなれば良いなと思っています。この情報発信方法をたくさん活用してもらいたいと思っています。

クラブ部長会は今年度から昨年度と異なり学生会から独立した団体となりました。部長会として独立した活動が始まった当初、部長会と他2団体(学生会、理大祭実行委員会)との連携がうまくいかず、トラブルを抱えてしまうことが多々ありました。しかし、情報共有ができる場ができたことで最近ではトラブルもなく3団体の連携が取れるようになっています。

後期になり、理大祭と秋のスポーツ大会が開催されます。部長会として学生会と理大祭実行委員会との連携が今まで以上に必要になってくる時期になります。この調子で今年度の新体制を次の部長会長へと引き継げるよう努力していきたいと思っています。

(部長会長 経営情報学科3年 佐藤 加奈子)

ビジネスラボ活動紹介



ビジネスラボでは、新たなビジネスモデルの立案や製品開発、地域振興などをテーマに現在7つのプロジェクトに取り組んでいます。活動は経営情報学科の学生を中心に行われ、茅野市や商工会議所、多くの地元企業などにも協力をいただいています。プロジェクトが始まったばかりの頃は、学生たちも何から手を付ければ良いのか分からないといった状況でしたが、協力企業さんとの打合せや勉強会、グループワークなどの活動を通して、自分たちのやるべきことや活用できる知識やスキルなどが見えてきたようです。



寒天組合の方を招いての勉強会の様子

現在ビジネスラボには、地元企業が制作した「植物野菜ユニット」が設置されています。このユニットは水耕栽培で野菜を育てることができる装置で、スマートフォンなどから簡単に温度管理などの制御ができ、野菜を育てたことのない学



オープンキャンパスでの植物野菜ユニットの説明の様子

生でも2週間程度で野菜作りが可能です。これまでに赤そばのsproutや小松菜、ビタミン菜といった野菜を育ててきました。オープンキャンパスで、このユニットで作られた野菜の収穫体験や試食を行っていますので、ぜひ参加してみてください。

(経営情報学科 尾崎 剛 助教)

研究室・ゼミ紹介

リア技術を応用した次世代モータについて研究しています《大島研究室(電気電子工学科)》



私たちの身近にある家電機器や自動車、産業など様々な場所に使用される“モータ”は現在、日本の電力消費量の50%以上を占めています。このモータがなければ私たちの便利で豊かな生活は成り立ちません。

私たちの研究室では、そんなモータの中でも次世代モータと期待されている、ベアリングレスモータの研究を行なっています。ベアリングレスモータは回転子主軸を電磁力により、非接触で回転浮上させることができます。このため摩擦、摩耗が発生せずに高速回転が可能です。また、メンテナンス



フリーかつ長寿命であるというメリットがあります。シミュレーションソフトにより解析し、モータを設計しています。また、実験機を製作して磁気浮上試験も行なっており、モータの構造や原理、実験方法を学ぶことができます。



このような体験から、未来のための環境づくりの一步を踏み出す基礎作りができる研究室です。

(工学・マネジメント研究科1年 五味 勇人)

平成26年度後期授業等の主な予定

- 9月19日(金) 後期授業開始
- 10月31日(金) 理大祭準備日のため終日休講
- 11月 1日(土)～2日(日) 理大祭
- 12月25日(水)～1月7日(水) 冬期休業期間
- 1月22日(木) 後期補講期間
- 1月23日(金)～31日(土) 後期定期試験期間
- 2月 4日(水)～ 7日(土) 後期集中講義期間
- 2月25日(水)～28日(土) 後期予備期間(追・再試験期間)
- 3月23日(月) 卒業式

以下の5日間は、授業調整日として、祝日であるが授業を行ないません。
9月23日(火)、10月13日(月)、11月3日(月)、11月24日(月)、12月23日(月)

上記の他、学生会の主催により10月に秋のスポーツ大会、12月にクリスマス会、2月にスキー・スノーボード教室を予定しています。

❖ 編集後記 ❖

「学園生活応援団」が名称を改めて「学生会」としてスタート、新生たちの元気な笑顔。今年もキャンパスにはさわやかな風が吹いています。そんな学生さんたちの姿を紹介しました。



夏目漱石の『坊っちゃん』の主人公は東京物理学校(現東京理科大学)出身です。そこで理科大のイメージキャラクターはこの『坊っちゃん』で、サブキャラクターの『ドンナちゃん』と一緒に愛されています。



学習支援室をご利用ください

学習をサポートするために学習支援室を毎日開いています。

- 高校時代の勉強を復習する
- 大学の授業の理解を深める
- 授業よりも一段上のレベルをめざす

※5月から「発展学習講座」を行なっています。

以上の3つを柱にして運営しています。

学生相談室をご利用ください～保証人のみなさまへ～

学生相談室では、保証人の方からの相談も受け付けています。お子様のことで心配なことがございましたら、学生相談室のカウンセラーにお気軽にご相談ください。

相談はカウンセラー在室日にお電話いただくか、手紙を本学学生相談室宛にお送りください。相談は無料です。

【学生相談室直通ダイヤル】

TEL 0266-73-1307

【カウンセラー不在の時】

TEL 0266-73-1354 (2号館事務室直通)